

町の知名度アップ

質問Ⅱ仁淀川ハーフマラソンの開催を 答弁Ⅱ課題もあるが開催に向け協議



山岡 勉 議員

水質は日本一、清流仁淀川という自然文化に恵まれた当町こそ、仁淀川をもっと押し出し町の知名度アップの一策として、2020東京オリンピック・パラリンピックに合わせて第1回を開催できないか。

筒井総合政策課長

既にハーフマラソンを開催している土佐市などから大会の現状をお聞きするなど、町での開催に向け可能性を探っている。

ハーフマラソンとなると、ルートとして国道や県道を走ることが想定され、



水質日本一の仁淀川

相当な警備が必要となること、また、迂回路の確保についても懸念材料がある。しかし、町の知名度アップにつながる取り組みと見出し、令和2年はオリンピックイヤーということで、新しい取り組みを始めるには絶好の機会でもある。

コース設定や実行体制、加えて経済効果がある取り組みにする方策など、実施に向けて協議を重ねていく。



町の中心市街地

斬新な発想こそ

質問Ⅱ町の活力・振興に向けアイデア公募を 答弁Ⅱひとつの手法であり検討したい

山岡議員

商店街の衰退は町の課題となっている。

町行政も議会も共有するが、これといった対策も見いだせない。

ややもすれば行政も議会も日常に埋没し、極めて常識的・平準的・硬直的な思考傾向になっていないか。

「灯台もと暗し」「木を見て森を見ず」となっている。

いか。

少し距離を置いたポジションからこそ、よく見えることもあるのではないかと。

閉塞感を突破するような斬新なアイデアが寄せられるのではないかと。

賞金やふるさと納税の返礼品数を準備するなどして町の活力、商店街の振興、活性化に向けたアイデア

ア公募をしてはどうか。

岡村産業経済課長

少し異なるが、大きな意味でいうアイデア公募として、高校生が考えるいの町活性化策の発表会を3回開催しており、採用し実行された例もある。

また、商店街の振興に向けた中心市街地活性化構想及び行動計画は、関係者を含むワークショップ参加者の意見・アイデアを丁寧に取り上げた計画で、住民のアイデアを採用する事例と考えており、固定概念にとられない斬新な声を聞くことは、大変有意義なことだと考えている。

アイデア公募といった手法は、町の新たな活力を生み出す可能性があるものと考えられる。

そこで、より有効なものとなるよう、まずは住民参画手法によって策定した中心市街地活性化計画などの推進に注力しつつ、機会をとらえ謝礼などを行うかどうかも併せ今後検討していく。